



飯山市農業の課題 1

「農業経営の改善を目指して」

品目横断的経営安定 対策の受付開始

4月5日に市役所で関東農政局長野農政事務所による出張受付が行われ、20人以上の認定農業者が加入申

（あしあ）と（3・4月の活動記録）

- 3/5 認定農業者協議会総会
 13 役員会、認定農業者審査会
 26 農地相談 28 農業委員会
 30 飯山国営土地改良区総会
- 4/6 とうたち菜肥料撒き
 10 役員会 11 情報委員会
 27 農業委員会



請を提出しました。この事業により、これまでの全ての農業者を一律に対象とした米、麦、大豆など品目ごとの価格安定対策から、農家ごとの経営安定に着目した施策へ見直されたものです。意欲と能力のある一定規模以上の担い手で、経営規模が4ha以上の認定農業者と20ha以上の集落営農が対象です。生産者と国があらかじめ積立を行い、例えば米価が下落した場合、過去5年間の平均米価の9割まで補填金が支払われます。これにより市場価格が大幅に下落したときの収入の減少を緩和するなど、農業経営の安定化を目指します。

確定申告期が終了

法の変更や領収書の保存が、不十分であった例がみられたそうです。これからの農業経営にあたっては、①出荷伝票や領収書をしっかり保存し、②手間がかかっても常に帳簿をつける③必要

経費を項目ごとに分類し、収支内訳書をつくる等が重要となります。たとえ小規模農家であっても継続して正しい収支計算をすることが、結局は農業経営の改善や合理化につながります。



経営安定対策の受付状況（4月5日）

今年の農作業標準労賃

作業名	使用機種	単位	備考
田 一般		740	
畑		700	
果 剪定		1,140	1時間当たり
樹 一般		700	
金 菌 茸		655	
その他（アスパラ、花き等）		655	//（室内作業）
耕 田	ロータリープラウ	6,610	10a当たり（条件により割増可）
起 畑	（15cm 耕）	7,350	（2度掛けは¥10,500）
作 碎 土	ドライブハロー ディスクハロー	6,610	//（条件により割増可）
業 代かき		8,080	//（条件により割増可、2回掛け）
料 田植え		8,080	// 植付けのみ
取 収	自脱型コンバイン	21,100	// 補助者付とする
	バインダー	10,080	// ヒモ含む
金 穫	ハーベスター	5,250	1時間当たり
	その他 トレンチャー	2,620	1時間当たり
賃 賃 料	バインダー	1,100	1条刈 1時間当たり
	乾燥・調整・包装	2,100	
	乾燥	1,200	水分20%を基準とする
	調整・包装	1,000	1俵60kg当たり

* 機械作業料金は税込み料金

* 参考：苗料金 芽出し：560円、緑化：635円、硬化：920円

がんばってます！

— No.23 —

明るく、元気良く！



としみつ とみみ
大日方 利満・朋美さんご夫妻

小沼（常盤）
は、常に温度調節等を行い、人間の体には特別な負

思っています。たお二人に、今後もお元気で頑張っていたらいいと思います。

学校を卒業してから、しばらく会社勤めをされていたそうですが、以前よりエノキ栽培を行っていたお父さんの経営手腕に自分も魅力を感じ、シメジ栽培に切り替えて就農されたとのことでした。農業のことは全く知らずに嫁いだとおっしゃる奥さんも、今では利満さんに協力され、二人で中心となり、利満さんのご両親と従業員の方とで作業を行っているとのことでした。特に両親には助かっていまして感謝されています。キノコ施設は、常に温度調節等を行い、人間の体には特別な負

また、お二人の子どもさんも中学生、小学生と成長期であり何かと忙しい中、PTA活動にもキノコ栽培等を通してご協力されています。仕事柄、子ども達と連れ立って出掛けることは多くありませんが、子ども達も良く理解し、それぞれ楽しんでいきます。奥さんが話されておりました。親の働く姿を目の前で毎日見ている子どもさんは、必ず家族への感謝の気持ちが育ち、また思い起こすことでしょう。明るくこやかに話されたお二人に、今後もお元気で頑張っていたらいいと思います。

あぜ道だより



農業委員 三ツ野 幸美（常盤地区）

飯山市の全小学校の給食に、地元女性農業者グループの提供する野菜が利用されている事を皆さんご存知でしょうか。六年前に戸狩小と木島小で始まり、次の年には全小学校で使われるようになりました。スーパーには一年中トマトやきゅうりが並び、大人でさえ旬という言葉が忘れかけ、自分の家の畑で何が作られているのか知らない人もいます。子ども達に旬の野菜のおいしさを味わってもらいたい、飯山ではどんな物が作られているのか、給食を通して農業に関心を持ってもらいたい、そんな思いで毎日届けています。年に数回、提供者も学校にお呼ばれして、いろいろな話をしながら一緒に給食を食べる交流をしています。子ども達は「私野菜食べら

れるようになったよ。」と空になったお皿を見せてくれたり、「この間おばちゃんのこと出たよ。」などと話してくれ、交流をとっても楽しみにしてくれているようです。給食の始まる前に「今日は○○さんの野菜と××君のおばあちゃんのご飯です。」などと発表していただきます。顔の見える食材を使い話題にすることによって、子ども達は食に関心を持ち、作ってくれた人への感謝の気持ちも芽生え、好き嫌いのあつた子どもも給食が楽しみになり、残飯はほとんどないそうです。給食用とはいえ一品目の量はわずかで、それを毎日決まった時間に届けるということはなかなか大変ですが、子ども達が喜ぶ顔を思い浮かべながら、野菜作りに励んでくれます。このような活動ができるのも小規模な自校給食だからこそと言えます。飯山市の子ども達が心豊かに育つように学校と生産者の協力が末永く続くことを願っています。